松江城正保年間絵図の松江市指定文化財への指定について

2月5日（月）に開催された令和5年度第2回松江市文化財保護審議会（会長　佐藤　信）において、以下の文化財を松江市指定文化財に指定することについて諮問したところ、指定すべきとの答申がありました。概要は記載のとおりです。

1. 種　　別　　有形文化財（歴史資料）
2. 名　　称　　松江城正保年間絵図
3. 員　　数　　1鋪
4. 時　　代　　江戸
5. 法　　量　　東西288.0cm×南北326.5cm
6. 所　有　者　　個人
7. 所在の場所　　松江歴史館（松江市殿町279）（寄託）
8. 指定基準　（令和4年3月31日　松江市告示第114号）

　　1 有形文化財　(7) 歴史資料

　　(ｱ) 政治、経済、社会、文化、科学技術等松江市の歴史上の各分野における重要な事象に関する遺品のうち学術的価値の特に高いもの

9. 指定の理由

「松江城正保年間絵図」は、『正保城絵図』の「出雲国松江城絵図」と密接に関連する貴重な城絵図である。「出雲国松江城絵図」と同じく松江松平家初代藩主松平直政期の松江城とその城下を描く数少ない絵図で、松江城と城下の初期段階の様相を考えるうえで示唆に富む資料である。なお、松平直政の重臣の乙部九郎兵衛家に伝わる資料であり、『正保城絵図』と密接に関わる城絵図が国元に伝存したことを示す点も意義深い。

以上のことから、「松江城正保年間絵図」は松江城研究を進めるうえで極めて学術的価値が高い資料であり、松江市の指定文化財とするものである。

10. 資料の性格・概要

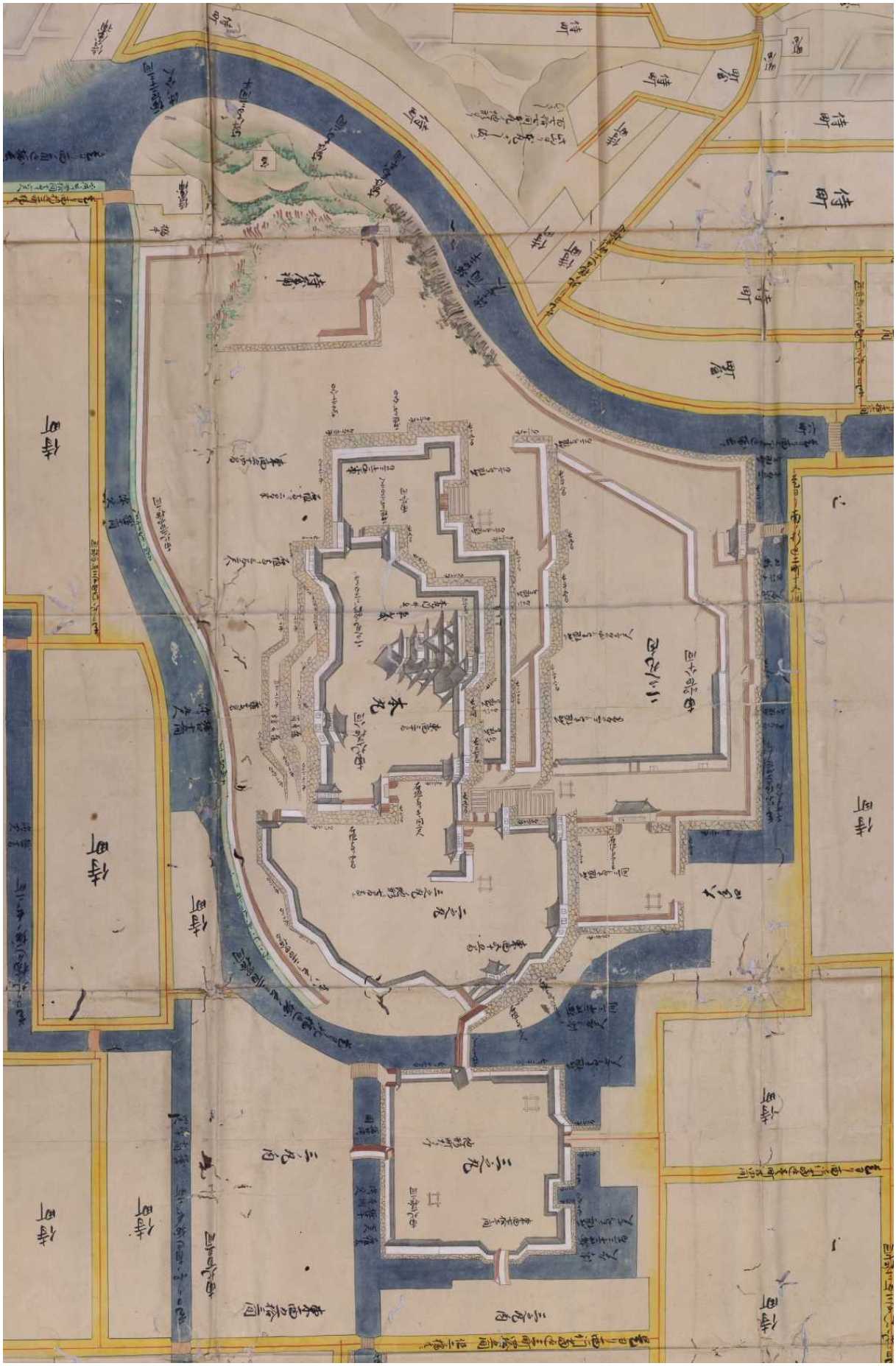
「松江城正保年間絵図」は、松江城とその城下を描いた絵図である。折仕立装で、法量は長辺（南北）326.5㎝、短辺（東西）288.0㎝、紙本に著色をもって描く。城郭の外観、構造を精緻に描き、本丸等の間数、石垣の高さや堀の深さなどを注記するほか、城郭周辺の町割を明示し、山河といった地形も描写しており、松江城下の全容を把握することができる。

本図は松江藩で家老を務めた乙部九郎兵衛家に伝わる。乙部九郎兵衛家は、もとは越前松平家に仕えた家系で、松平直政の出雲国への転封とともに重臣として付き従い、幕末に至るまで松江松平家に重用された。

「松江城正保年間絵図」は、正保年間に作製されたか定かではないが、重要文化財『正保城絵図』の一つである「出雲国松江城絵図」と多くの点で共通する。『正保城絵図』は、正保元年（1644）12月に江戸幕府が国絵図、郷帳とともに諸藩へ提出を命じた城絵図である。幕府から指示された城絵図作製の要領に基づき各藩が調進した上呈図の原本63鋪が現在、『正保城絵図』として国立公文書館の内閣文庫に収められている。1城1鋪に収めた各図は、いずれも折仕立装、法量は東西、南北ともおよそ2～3mほどである。幕府開府から40年ほど経た時期に作製された『正保城絵図』は、全国各地における城下町形成の初期段階の様子を知り得る貴重な資料である。なお、全国の城郭とその城下を統一的な様式で描く城絵図の提出を幕府が命じたのは、この正保期に限られる。

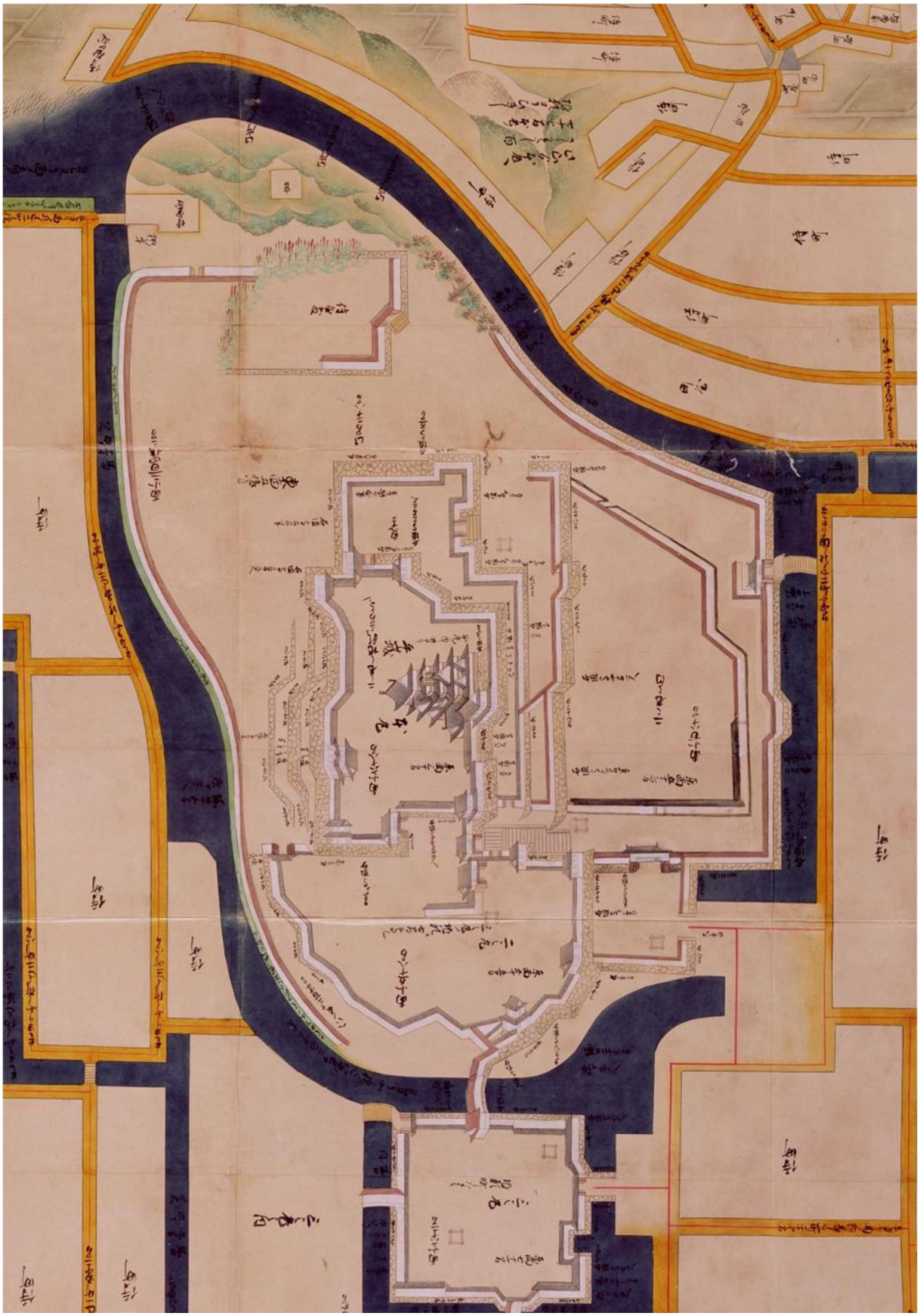
「松江城正保年間絵図」と「出雲国松江城絵図」を比較すると、堀や門など一部の描写が異なり、幕府献上図である後者が丁寧に描かれて記載の字句が多いなどの相違点がある。しかし、大部分の記載内容、形態、法量などがほぼ同じであることから、「松江城正保年間絵図」は『正保城絵図』と密接に関連する絵図であると指摘できる。

松江城正保年間絵図（個人蔵、松江歴史館寄託、288.0 ㎝×326.5 ㎝）



松江城正保年間絵図（城郭部分）

【参考】出雲国松江城絵図（国立公文書館内閣文庫蔵、274 cm×324 cm、重要文化財）



【参考】出雲国松江城絵図（城郭部分）